

2016 年度調査速報

2016 年 5 月 27 日～5 月 29 日 太郎山周辺ライチョウ生息調査及び残雪状況調査

大村顕介（会員）

調査目的

太郎山周辺のライチョウの生息状況を把握する。

2015 年に引き続き、太郎山東斜面の融雪線の記録を取る。

調査方法

登山道、植生と残雪の境界付近を踏査し、

- ① フン、羽、その他の痕跡を発見したらデジタルカメラで撮影し、痕跡の撮影画像の直後にハンディ GPS の操作画面を撮影することで記録とする。また、ハンディ GPS で位置を記録する。
- ② 鳴き声が聞こえた場合は聞こえた方角を撮影し、①と同様にハンディ GPS の撮影と位置記録を行う。
- ③ ライチョウを発見した場合はデジタルカメラで撮影し、離れた位置で①と同様にハンディ GPS の撮影と位置記録を行う。
- ④ ①～③の調査とともに、太郎山東斜面の融雪線をハンディ GPS で記録を行った。

調査結果

1. 生息状況の確認記録

糞 38 地点、その他の痕跡（足跡、羽毛、砂浴び痕、鳴き声）9 地点、オス成鳥 5 地点の記録を行うことができた。

縄張り雄は、太郎平小屋東の水場雪溪側に一羽、上ノ岳山頂北側で一羽確認することができた。また、痕跡も縄張り雄を発見した周辺で多く見つかっている。アブレ雄を縄張りから追い出す行動が見られた為、交尾産卵期と思われるが、雌を発見することはできなかった。

また、2006 年に縄張りや営巣が確認されていた上ノ岳山頂南側では糞などの痕跡が見つかっており、今回縄張りは確認できなかったが繁殖活動は継続しているものと推定される。

2. 融雪状況

例年であればこの時期は雪が多く、雪解けの進んでいる風衝地や雪上で採食を行う雄成鳥と雌成鳥が見られる時期である。しかし、今年は雪が少なく、5 月 28 日時点で昨年 7 月 11 日に融雪線よりも少し多いぐらいという状況であった。